

Stereo

2015 December - JAPAN



注目したい

# フルテックの 新コンセントの 実力



NCFシリーズ

## 壁コンセント GTX-D NCF(R)、他

※写真のボックスは試聴用試作品で販売されていません。

電源関連アクセサリブランドの雄フルテックから、最新の壁コンセントと電源プラグ類が発売となった。NCFシリーズがそれで、新しい静電気対策素材NCFを採用した製品群。壁コンセント GTX-D NCF(R)、ハイエンド電源プラグとインレットプラグFI50M NCF(R)とFI50 NCF(R)、ACインレットFI-06NCF(R)の4機種がラインナップされている。ここではそのNCFの効果を聴くために、電源コンセントを中心に、解説、試聴を掲載しておく。試聴にあたっては、聴き比べをやすくするためと、電源工事を避けるためにフルテック社用意の電源ボックスに搭載したもので、試聴を行っている。

Text ● 林 正儀 Photo ● 風間憲二

### FI-50M NCF(R) ¥32,000 FI-50 NCF(R) ¥32,000

これもまた、樹脂部分にナノ単位のパウダーを混入させ、制振性能を高めたうえ、新採用のNCFをさらに調合させ、振動のみならず静電気対策も併せて行い、電力の安定した受け渡しを実現した電源プラグとインレットプラグ。ハウジングはステンレス合金から削り出し、内部に特殊樹脂、外側にシルバーカーボンファイバーで仕上げた3層構造。電極部は純銅にロジウムメッキを施し、さらにα-プロセスという超低音処理+特殊電解処理を実施している。

### GTX-D NCF(R) ¥22,000

NCFシリーズ  
の紹介

今までも高い制振性能を発揮してきた樹脂部の素材は、ナイロン+ガラスファイバー樹脂にナノ単位のセラミックとカーボンパウダーを混入させたものだった。今回は、新規採用の特殊素材NCFを静電気対策として調合することにより、ノイズの発生を抑え、音の濁りのない静寂感を実現したという。弾性を持たせた純銅電極と接触用加圧バネの2ウェイコンダクターとロジウムメッキにより、高い給電能力と信頼性を高めている。

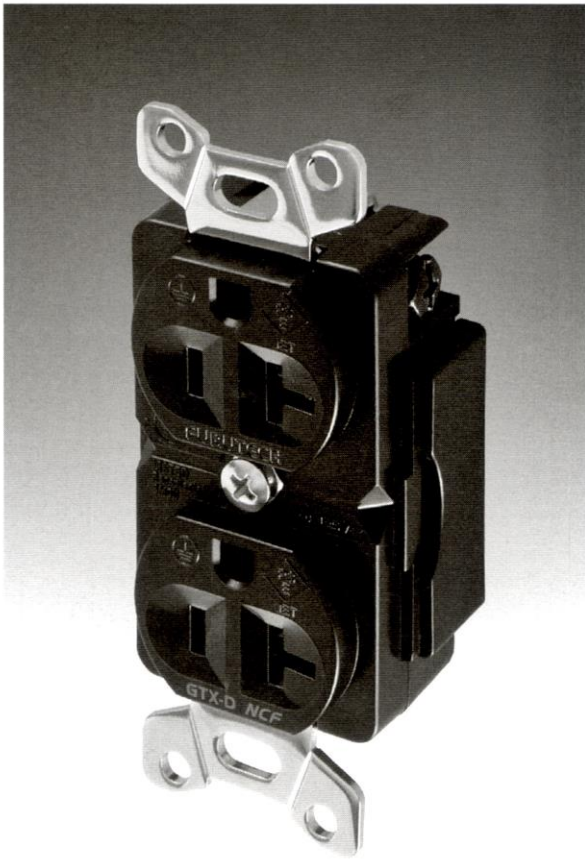
現行モデルでも、リファレンス的好SN比でダイナミックであるがNCF効果は素晴らしく、上には上がありオーディオの新境地を見せられた印象

視聴  
レポート

フルテックの電源パーツは、今間違いない世界トップといっている。各メーカーに供給され、名だたる電源ケーブルやタップ、あるいは壁コンセントに「FURUTECH」の文字を見るだろう。私達はいつの間にかフルテックの音を聴いていたわけだ。

この秋同社が発売した、注目の「N

CFシリーズ」を紹介しよう。ハイエンドグレード壁コンセントのGTX・D NCF(R)。電源プラグ/インレットプラグのFI・50M NCF(R) / FI・50 NCF。そしてACインレットのFI・06 NCF(R)と、現行モデルが全てバージョンアップされ、上位の新シリーズとして揃うのだ。



GTX-D NCF(R)



GTX-D NCF(R)を裏から見る

NCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)は、静電対策のためのナノ素材で、微細なマイナスイオンを発生する鉱物質のものだ。これを本体樹脂やプラグの絶縁樹脂に混入させることによつて強力に作用する。

なかでも興味深いのは最上流となる壁コンの効果だろう。現行の最高峰であるGTX・D(R)は純銅電極を採用。本体はナイロン、グラスファイバーを複合した樹脂にセラミックとカーボンパウダーを添加した素材が使われ、振動対策は万全といえる。そこにNCFをハイブリッドさせたのだから鬼に金棒だ。

現行GTX・D(R)の音は、私に

いわせればリファレンス的で無色透明。SN比とダイナミックさに優れ、このコンセントからとれば電源環境は上々である。通常はこれで充分のはずだが、いったんNCF仕様を聴くと上には上があった……。

### ピアノに生命力が宿り 混濁のない澄んだ余韻は見事

ここでは電源タップに組み込む形での比較だが、それでも効果は半端じゃない。これはリファレンスの限界を突き破るぶつ飛びの高SN比と超解像感。研ぎ澄まされたようになめらかであると同時にくつきりと輪郭を描き、コントラストも大幅に強化された。大げさだが、オーディオの新境地を見せられた印象なのだ。

実際に壁にセットすれば、さらに静寂感や音の透明度もアップするのは明らかで、聴き慣れたボーカルやソロギターが、おおっと身を乗り出すほど生々しい。ピアノは打鍵に生命力がみなぎり、混濁のない澄んだ余韻は見事なもの。管絃楽もスケールが拡大され、ピークは一層パワフルだ。演奏の体温やホールサイズを実感させる。ぜひとも、ほかの「NCFシリーズ」併せて、体験して欲しいものだ。